

<問い合わせ状況 2025 年 7 月>



● 院外処方せんに関連する問い合わせ

当院は院外処方せんを発行しています。処方内容などに疑義が生じた場合の窓口は薬剤師となっており、月に 5 ～10 件程度の問い合わせに対応しています。7 月の疑義照会は 7 件で、内容は以下の通りでした。



- 日数調整 (2 件)
- 用法用量確認 (2 件)
- 重複処方
- その他 (2 件)
 - ・ 入荷困難薬からの変更
 - ・ 処方箋枚数不足



● 薬に関する問い合わせ (患者・家族・施設より)

患者さんやご家族、施設の方からの質問にも対応しています。

7 月はお問い合わせが 1 件ありました。

- 退院処方でサムスカ[®]錠が出ているが、SIADH か？ 1/4 錠の指示だが、どのようにして調剤していたか？

● 薬に関する問い合わせ (院内より)

他部署スタッフからの質問にもお答えしています。記録してある DI 室への問い合わせは、7 月は 9 件でした (病棟で直接質問されたことは未記載の可能性あります)。

◎がついたものについては回答を DI ニュース No. 471 に記載しています。

◎ニフレック[®]を授乳婦へ使用可能か？

- 眼脂から MRSA が検出されたが、効果のある薬があるか → バンコマイシン眼軟膏 (当院未採用)
- オゼンピック[®]を 1 回使用後の保存場所は？ → 室温 (0～30℃)。30℃を越えない場所であれば良い。

◎抗てんかん剤を切り替える場合、数日重複服用させるのか？

- メロペネム使用のためバルプロ酸からエクセグラン[®]へ変更したいが、使用可能か
→ Dr. 指示があれば変更可。エクセグラン[®]とメロペネムには相互作用が無いので併用可。

◎蒸留水を保温庫 (38～40℃程度) で保存して良いか

- ペースメーカーのクリニカルパスにユナシン[®]S が入っているが良いか → 適応外。セファゾリンを勧める。
- ロナセン[®]テープの副作用で麻痺性イレウスがあるが、発現頻度はどのくらいか？
→ テープ剤の治験 (海外報告を含む) では麻痺性イレウスの報告は無い。

経口剤の使用成績調査 (3130 件) 中、1 件 (0.03%) の報告あり。

- リンを上昇させる薬があるか？ → ホスリボン[®] (当院未採用)

